

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その1）

重点事項：学力の向上による進路保障		主担当	スケジュール	備考「冊子」	
（年度努力事項） 授業力の向上		1 教科内での連絡を密にし、授業シラバスを確立し、適切な教材の共有化を図る。授業研究会を立ち上げ、校内授業研究を行う。 2 大学入試問題研究を実施し、授業力の向上に努める。模試結果を公開し、学年・教科での指導に活かす。入試問題を見据えた授業内容の工夫。 3 授業評価を実施し、授業の改善を行う。過去の指導経験に安住せず常に新しい教材研究を進める。話し方、伝え方など発信力の鍛錬。形式的評価を工夫し、実施する。	学年 学力向上	6月授業研究会開始	
（目指す姿） 教員が自分の授業力を向上させるために日々研修に練磨することで、生徒が満足できる授業が展開され、それが学力面に好影響を及ぼす。	（現状） 本校は研修の場が多く、教師の授業の質も自ずと高くなり、生徒の学力面にも好影響を及ぼしている。		進路 学年	10月配布・模試実施毎に公開（進路）	「京都大学研究」
			学力向上 学年	随時実施	随時アンケート実施
（年度努力事項） すべての生徒の学力の向上		1 朝学習を継続し、基礎基本の定着と学習への雰囲気づくりに資する。バランスの良い時間割を作成し、家庭学習を計画的に取り組ませる。 2 補習や学力不振者への指導を行い、個々の学力・進路に応じた指導を行う。生徒の学習意欲の向上を図る活動を推進する。計画的かつ継続的な補習を実施する。HR担任と教科担当者との意思疎通や連携を図る。 3 専門科目の着実な定着を図るために学科や学年に応じた全商主催検定試験1級の取得率の向上に努める。	学年 教務	毎日（学年） 5月までに調整（教務）	
（目指す姿） 生徒が日々の授業に知的好奇心を燃やして主体的に参加し、学ぶことの楽しさを体感し、潜在的な力を向上させる。	（現状） 朝学習や補習、検定等により継続的な指導ができています。		学年 進路	放課後、土曜日、長期休業中実施	アンケート実施
			商国	通年	
（年度努力事項） 進路実績の向上		1 第一志望を早期に決定できるような指導。主任面談、担任面談を継続的に実施する。第一志望届を念頭に、学年全体で個々の生徒の進路保障に努める。時間割内に会議を設定し、面談等の時間を確保する。 2 成績状況確認会や成績検討会を実施し、面談等で進路指導に活かす。第一志望校を受験する割合を指導目標として設定する。『生徒個人カルテ』を有効に利用し、適切な指導助言を行う。 3 実力考査結果の検討（各教科、個々の生徒について）、難関大学を目指す生徒の情報交換会の実施。	学年 教務	主任面談6月～（3年） 5月実施（教務）	
（目指す姿） 第一志望届により、早期に目標設定させる指導により、質の高い学習を継続させ、進学校として着実な実績を残す。	（現状） 第一志望届の存在を重視する教職員が多く、早期目標が設定でき、進路実現にもつながっている。		進路 学年	模試毎に結果分析（進路）	生徒個人カルテ（3年）
			学年		

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その2）

重点事項：豊かな人間性を持った生徒の育成		主担当	スケジュール	備考「冊子」
（年度努力事項） 規律ある態度の育成	具	1 生活3原則の徹底。特に、登校時の遅刻数を年間0にする。勉学と部活動の両立。	生徒指導 学年	毎日校門指導実施
（目指す姿） 自己を律する精神を涵養し、個人と集団との関係を思慮し、相手のパーソナルを尊重できる生徒を育成する。	的		生徒指導 学年	部長会議を学期に2回実施
（現状） 生活3原則を尊重する組織集団となっているが、生徒の質に変化が見られる。	取		生徒指導	マナーアップは6月と年2回実施
（年度努力事項） ボランティア体験の実施	具	1 ボランティア等へ参加する。	生徒指導	4月「蜻蛉祭」に募金活動実施
（目指す姿） 進んで奉仕活動に従事することで、体験学習の大切さや喜びを学ぶ。そして、地域との連携を深め、信頼の置かれる生徒を育成する。	的		生徒指導	7月と12月にクリーンキャンパス実施
（現状） 真面目に取り組める生徒が多いので、多くの生徒に体験学習を積ませたい。	取		総務 学年	随時実施
（年度努力事項） 人権教育の充実	具	1 人権HRの創意工夫。学年・HRへの帰属意識を高め、準拠集団としての学年経営を目指す。学期ごとに3班に分かれ、各学年の人権担当者を中心に「行き方HR」の実施内容を検討する。1年次携帯やネット上の人権侵害問題についての人権HRを実施する。1年当初本校独自の東高人教アンケートを行い、入学までの人権学習の実態を把握する。全校生を対象に人権映画会を実施する。	学年 人権	
（目指す姿） 人間尊重の精神を涵養し、日常生活において人権を尊ぶ態度を育てる。自らを見つめ、よりよい生き方を追求できる人間を育成する。	的		国際理解	7～8月オーストラリア国際交流研修、11月タイ生徒ホームステイ、12月講演会
（現状） 生き方HRについて、3班構成で研修の場が持たれ、学校全体で取り組んでいる。	取		保健	7月4日（水）研修会 「カンセリグマインド」
	組	2 国際交流を通じ、世界には様々な価値観が存在することを認識させる。		
	み	3 教育相談・研修会の実施。		

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その3）

重点事項：地域に信頼される学校づくり		主担当	スケジュール	備考「冊子」	
（年度努力事項） 情報発信の手段と内容の充実		学年 学校評価 総務	随時実施		
（目指す姿） HP、学校公開等で最新の情報を発信し、保護者・地域住民等に情報を提供し、理解と参画を得て連携協力を進める。	具 体 的 取 り 組 み				1 学年ページ等を充実して本校を広く外部にもアピールするHPを作成する。学校評価を充実させることで、開かれた学校づくりをさらに推進する。学校公開の実施や学校案内のパンフレットにさらなる工夫を加える。創立110周年記念行事を実施する。
（現状） HPの充実により、保護者や地域に対して学校の情報を的確に発信している。	2 双方向性も考えた保護者・職員に対する緊急の連絡体制を確立する。学校と保護者の相互コミュニケーションをとる。 3 図書通信を定期的に発行し、HPに掲載する。年3回のブックフェアの開催。年3回の図書館報の発行。探究発表会を小野エクラで実施する。探究発表会の講評を大学の教職員に依頼する。				
（年度努力事項） 教職員の意識の高揚		総務 学校評価 学年 人権	随時実施 中間評価（7月）実施 学校評価（12月）実施	アウト実施 アウト実施	
（目指す姿） 学校評価制度が明日からの小野高校をよりよい方向へと進ませる指針とし、教育活動の活性化につなげる。	具 体 的 取 り 組 み				1 各行事について、実施マニュアルの共有化を図り、全職員で取り組む。 2 学校評価により教職員が何をすべきかを模索し、教育活動の活性化を図る。 3 学年分掌に主体的に参画し、意欲的な企画立案を提示する。学年団の情報交換を密にし、生徒個々の指導を集団的に行う。人権教育職員研修会を実施し、人権意識の向上を図る。
（現状） 学校評価を効果的に活用することで、教職員の問題意識を高めている。					
（年度努力事項） 地域との連携		インターシップ 商国 科学総合 人権 総務	5月下旬～11月上旬 （実習は8月中） 7月13日（金）（商国） 通年（商国） 7～10月にかけて実施	インターシップ報告書 HRで紹介冊子の作成 感想文の提出	
（目指す姿） 学校・家庭・地域が三位一体となり、お互いが連携することによって、質の高い組織体となり、開かれた学校づくりに邁進する。	具 体 的 取 り 組 み				1 キャリア教育を推進するため地域の教育力を活用したインターシップを実施する。商国だけではなく普通科希望者へ。 2 国際経済科3年生が市内の小中学校へ訪問し専門の魅力を取り入れた模擬授業を実施する。地元企業と連携した販売実習や専門の授業を利用した商品開発。地域の課題の調査研究活動を実施する。 3 サインポート事業で兵庫教育大学と高大連携を行うSPP事業を実施。 4 小野市人権教育研究協議会他、関連行事に参加し、連携を強化する。 5 物品販売業者との連絡を密にして、生徒が物品を円滑に購入できる環境を整える。
（現状） 地域と積極的に連携することで、本校の事業に対する理解を得ている。					